

ミライロハウス TOKYO

新しい価値観を 生む場所



みんなが使いやすい製品を扱う 体験型のショールーム

「ミライロハウス TOKYO」(株式会社ミライロ)は、障害のある方と企業をつなぐ場所です。店内にはユニバーサルデザイン※の商品が多数並べられています。例えば、車いすの着脱式電動アシスト機や、音の間こえづらさを解消するスピーカーなど、実際にここで体験することができます。企業がよい製品を作っても必要とする方にまで届きづらい状況にありました。一方、障害のある方にとっては、情報を得たり体験できる場所がほとんどありませんでした。丸井錦糸町店の中にあるので、どなたでも気軽に立ち寄ることができます。

ふれる、つながる、学ぶ、創る 情報発信と交流の拠点でもあります

ここでは交流会や相談会、イベントなども行っています。2020年の7月1日にオープンしたばかりですが、多様な視点を見つけられるセミナーが毎月行われています。「靴下の試着体験会」「点字を学ぶ講座」「各種セミナー」など、気負うことなく学ぶことができます。

※ユニバーサルデザイン：年齢や障害の有無、体格、性別、国籍などに関係なく「すべての人のためのデザイン」を意味します。

ミライロハウスから 新しいものを生み出していきたい

「誰にとっても使いやすい製品やサービスを、ここから送り出したいです。そのために、障害のある方をはじめ、企業の開発担当者やエンジニアなど、多彩な人が集まり意見交換をする場を作っていきます。ユニバーサルデザインといったらミライロハウス、といわれることが目標です」と株式会社ミライロの森田啓さん。一人ひとりのライフスタイルを快適にしていく。そのきっかけは、いつでもここで開かれています。



「福祉機器をいつでも見に来ていただけます。これは一つの価値だと思います」と森田さん。



障害のある当事者の意見は貴重です。岩田さん(右)は接客だけでなく、幅広く活躍しています。

いろいろな人と出会う接客が とても楽しいです

「来客された方への商品説明やボッチャ体験、車いす体験のサポートなどを行っています」
大学3年生の岩田完治さんは、週に1~2回ミライロハウスでアルバイトをしています。通勤は電車で1時間ほど。高校生のころから車いすです。電車通学をしているので、特に苦労することはないそうです。

岩田さんは2歳半の検診で先天性脳性麻痺と診断されました。杖を使った時期もありましたが、将来を見据えて車いすを選択し、10年以上になります。

みんなが対等の 社会になってほしい

「障害者と健常者が分けられているように思います。健常者の方が、障害者だからやってあげなきゃいけない。と思うことに対して、障害者も気づくんです。そこが嫌だと思っていました。障害者だからやってあげるのではなく、困っているから助けて。そういう社会になることが夢です」

社会福祉を勉強している岩田さんは、友人たち



店内には福祉に関する本や機器、ユニバーサルデザインの商品が並んでいます。点字に触れるきっかけがあったり、芝生や坂道などでも車いすを快適に動かせるパワーアシストを試すことができます。



「障害に関わらず意見交換のできる場」というサークルの代表をしている岩田さん。楽しい企画を思案中です。

の優しさに驚いたといいます。階段のある場所でも「完治と一緒にいきたいから」と当たり前のように車いすを上げてくれます。これが対等の関係ではないかと思っています。

ユニバーサルデザインは 生活が豊かになります

接客をしていて印象的なことがありました。
「ユニバーサルデザインを扱うこうした場所があるのはいいですね。と、健常者のお客さんから言われたことが、とても新鮮でした。障害者や高齢者が使いやすいものは、誰にでも使いやすいです。生活を豊かにしてくれるユニバーサルデザインは、どんどん広がっていると思います」